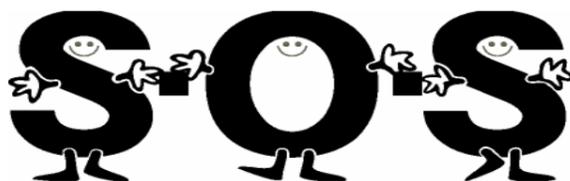


vol. 104通信 (平成21年4月10日発行)



発行元：株式会社サポート・ワン・サービス  
愛知県津島市愛宕町四丁目113 〒496-0036  
代表TEL：(0567) 26-3921  
FAX：(0567) 26-3922  
ホームページ <http://www.s-o-s.co.jp>

老いの姿を学ぶ ～愛宕の家の日々より～ その2

「食べさせてやりたい!!!」  
愛宕の家には口から食べて栄養を取ることが出来ない方が4人居ます。脳梗塞の後遺症や高齢になることで、食べ物を口から入れゴックンと飲み込むとき、食べ物が食道のほうへ行くように上手く脳の指令が働かず、知らないうちに気管から肺へ入ってしまい肺炎になってしまうのです。この誤嚥性肺炎で入退院を繰り返す、口から食べるもののリスクを思い知らされます。その結果、胃に直接穴を開けたり、鼻から胃までチューブを通して流動食品を流し込むという食事形態となっているのです。

Tさんは『美味しいものが喰いたい!!!』と訴えます。Tさんの奥さんは、いつも『好きなものを食べさせてやりたい。大好きなステーキを食べて死ぬなら本望だ!』と言います。

それでもやっぱり、口に食べ物を運んであげることが出来ません。「このひと口で熱が出たらどうしよう」と迷い、「熱がでたら苦しむのは可哀想」と自分に言い聞かせ、最後には生きていて欲しいという想いになり“食べさせることが出来ない”のです。

食べること以外の、それにも勝る楽しみは何だろう……。介護する側としての大きな課題を突きつけられています。

先日の暖かい日、ご夫妻と一緒に、満開の桜を見に出掛けました。久しぶりの車椅子での外出。『疲れた。。。』と言いつつ、『本当に綺麗だった。』と、とても満足そうな表情を見せてくれました。Tさんにとっては、団子より花だったということにしておきましょう。(1)



《お花見日和/ナイス・デイ》

桜が咲くとウキウキしちゃうのは、日本人なら誰でも一緒なのでしょう。ナイス・デイの皆さんも、「桜を見に行こう!」と誘うと行動の早いこと! あっという間に出かける準備が整います。開花が早かった割に長持ちした今年の桜



のお陰で、日を変え、場所を変えお花見をすることが出来ました。「来年も花見が出来るように元気で頑張る」と桜に誓う人も。  
\* 来年もお花見しましょうね \*



《誕生会のおやつ/S・O・S》

「いつもどんなおやつを食べているの?」と聞かれることがあるので紹介します。今回のおやつは小倉&フルーツサンドと紅茶。絶対に手作り! とはいかないけど、いいよね



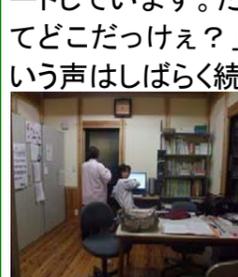
《ウキウキ♪/S・O・S》

3月末、新しい事務所へ引越しました。玄関を入るとOA機器が置かれているメインの事務所が見えます。



玄関右手には、応接室・トイレ・スタッフルームと続き、木造特有の柔らかい空間となっていてとても快適な環境です。スタッフ一同新しい建物と同様、気持ち新たにそれぞれの仕事をスタートしています。ただ、「〇〇の書類ってどこだっけ?」「え〜っとお・・・」という声はしばらく続きそう☆☆☆☆

やっと、事務所らしい場所ができたのでこれで来訪者さんは迷うことなし??



訪問介護は、基本の利用単価が上がったことで、現在までの特定事業所加算Iを取得したままでは利用者さんへの負担がとて大きくなってしまったため、4月〜特定事業所加算IIへ変更。となると、契約書に綴じてある重要事項説明書の内容も変わってきます。説明及び差換えが必要ですので、該当利用者様及びご家族様は、契約書保管分をご用意下さい。

《お願いします/S・O・S》



提供責任者が訪問し、契約書に写真の書類を綴じます。

《ハンカチ体操/ナイス・デイ》

利用者さんの顔が出揃い、体調確認が済んだら、体操の時間です。まずは「今日は何月何日?」「何曜日?」と頭の体操。その後、少しずつ体をほぐしていきます。徐々に体が動くようになったら、今度は椅子や道具を使っての運動が始まります。ハンカチを使っての体操は、即興で大きな声で歌いながら手を振る運動になりました。いつもと違う筋肉を使ったせいで、翌日筋肉痛にならなかったかしら?



《運営懇談会/愛宕の家》

3月28日、第2回運営懇談会が開催されました。愛宕の家の設立から現在までの経緯、利用状況、県や消防の調査結果をお知らせし、看護師からは健康診断や緊急時の対応に関する説明がありました。参加された入居者のご家族からは、命に関して「いざ」という時の対応についての経験を語られたり、「延命」についての意見を話していただくなど、会話は自然と看取りについて流れていきました。それぞれに考えや意見は違えども、いつか終わりがくる命について向き合い、考える場になったのではないのでしょうか。ご家族の考えを聞くことができ、愛宕の家の在り方をお話できる貴重な時間になりました。

《南京玉すだれ/S・O・S》

3月の誕生会に登場したのはスタッフによる出し物。この日に披露しようと2か月前から特訓した成果を見せてくれました。ナイス・デイのフロアには、愛宕の家で過ごしている方や子供たちも集まり、南京玉すだれに釘付け! 手拍子や掛け声で楽しい誕生会になりました。見事に演じた二人の弾けるような笑顔に、見ている皆も引き込まれていました。

さては南京玉すだれ! しだれ柳に飛びつく蛙、蛙いないがおなぐさみ!



《杖はまだ早いよ/託児》

歩き始めたと思ったら、毎日どんどんとスピードが速くなっていく1歳児。歩くスピードに比例して、いたずら(本人はいたずらと認識していませんが...)も加速中です。利用者さんを真似て杖を使ったり、洗面所によじ登って歯磨きを始めた。すべての行動が微笑ましく愛らしく思えます。小さな瞳で見つめられていることを利用者さんもスタッフも日々感じながら過ごしています。



《いつもと違う/愛宕の家》

入居者さんの様子が「いつもと違うなあ」と感じたときは、熱が高かったり、便秘だったり、自宅や家族が恋しくなっていたりと様々な理由が隠れていることが多いもの。そんな様子を察知した介護士は看護師に伝え、看護師は医療面も含め総合的な目で確認し、判断や指示を行います。介護と看護、その両方が共鳴し合って愛宕の家の健やかな生活が成り立っています。それから...入居者さんのいつもと違う様子を感じたとき、それはスタッフ自身が「愛宕の家の一員なんだなあ」と実感するときでもあります。「いつも」を知っているということですが、揺るがない目で見つめる大切さを感じています。

《介助方法/ナイス・ケア》

清潔を保つための全身清拭や着替え、トイレへの介助もヘルパーの仕事。単に清潔だけを目的と考えず、安全に快適に自立への一歩として行うようにしていますが、訪問先ではヘルパーは一人。他のスタッフがどのように行っているかを知りたい。良い技を盗みたいとミーティングで実践です。利用者さんの状態やスタッフの体格を考慮し、工夫すべき介助方法を話し合いました。



《編集後記》

花盛りの季節、新入生や新入社員には期待と不安で心躍る季節です。そんな気持ちから何年も遠ざかっている私ですが、先日、あるタレントの「成功することは難しい、でも始めることは簡単」という言葉を読んで少し心が動いています。目標があるのなら、どんな小さなことでも出来ることを全力でやればいいし、時間がない・お金がない・知恵がない...と嘆く前に、ないなりに頑張りようがあるのだと前向きに思い始めています。何だかやる気持ちになるのは季節が後押ししてくれているのかも。この春、皆さんのやりたいことは何ですか? 私? ...それは内緒です(笑)(M)